

炎症性腸疾患に対する新薬の特集

第5弾 オンボー® (ミリキズマブ)

—潰瘍性大腸炎—



特徴

第4弾でご紹介したスキリージ® (リサンキズマブ) と同じ作用機序の薬剤です。過剰な免疫反応の原因となるインターロイキン 23 (IL-23) の一部である IL-23p19 蛋白に結合し、IL-23 の働きを中和することで腸管の炎症を抑制します。

スキリージ®は中等症から重症のクローン病に適応があるのに対して、オンボー®は中等症から重症の潰瘍性大腸炎に対して 2023 年 6 月に発売開始されました。寛解導入療法から寛解維持療法まで使用することができます。

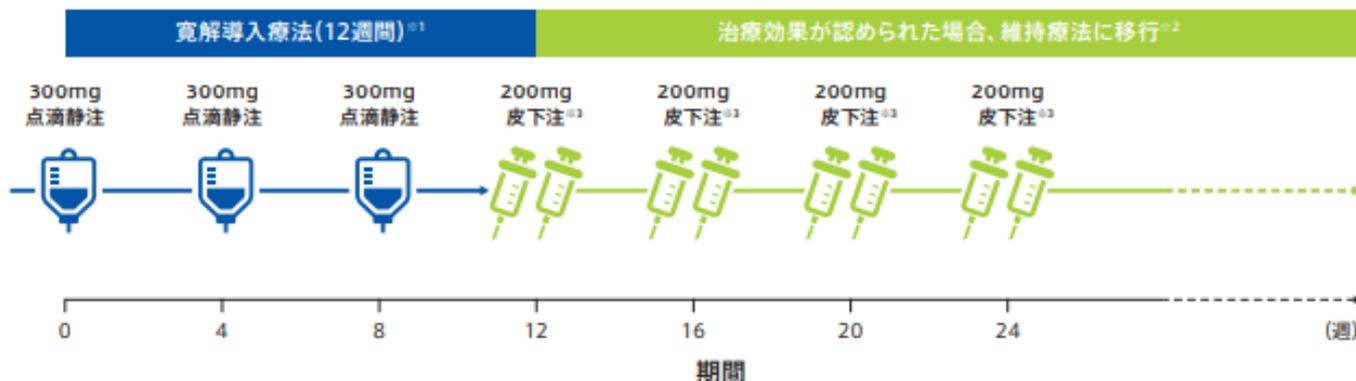
潰瘍性大腸炎の患者さんは便意を感じるとすぐに我慢がきかなくなるといった「便意切迫感」によって日常生活に影響をうけることが多いと言われています。

そこで本剤は臨床試験において、下痢・血便などの症状に加えて便意切迫感への効果が検討され、改善が報告されています。

投与方法

寛解導入療法では点滴製剤 1 回 300mg を 30 分以上かけて 4 週間隔で 3 回 (初回、4 週、8 週) 投与します。12 週時点で治療効果を確認します。治療効果が認められた場合は、寛解維持療法として皮下注射製剤 (シリンジかオートインジェクター) 1 回 200 mg を 4 週間隔で投与します。当院の皮下注射製剤はオートインジェクターです。お腹や太もも、上腕部の皮膚にあてて注入ボタンを押すと 10 秒ほどで薬液の注入が完了します。1 本 100 mg のため、2 本投与する必要があります。効果が弱くなった場合は、再度点滴注射を 4 週間隔で 3 回点滴静注を行い、治療効果が認められた場合は皮下注射を再開することができます。

■ 投与スケジュール



※オンボー®適正使用ガイド

注意点

スキリージ®と同様、重篤な感染症にかかっている方、治療が必要な結核の方には投与することができません。

BCG、麻疹、風疹、水疱瘡などの生ワクチンの接種は控えてください。

また、他の生物学的製剤又はヤヌスキナーゼ (JAK) 阻害剤との併用について安全性及び有効性は確立していないので併用を避けてください。

副作用として過敏症や肝障害などに注意が必要です。

(文責：薬剤師 南有里)